

口 腔 ケ ア 学

科目責任者：福 本 正 知（口腔外科）

I. 前 文

口腔ケアとは、口腔の疾病予防、健康保持・増進、リハビリテーションによりQOLの向上をめざした口腔より全身を考える科学であり技術です。具体的には感染症の予防や重症化の予防、がんや心疾患などの治療における支持療法や認知症の予防や進行の予防など、高齢者への各種サポートも含め、多岐にわたります。一般的には検診、口腔清掃、義歯の着脱と手入れ、咀嚼・摂食・嚥下のリハビリ、歯肉・頬部のマッサージ、食事の介護、口臭の除去、口腔乾燥予防などがありますが、口腔ケアの臨床、研究の進歩により各種治療を含めた多職種によるチームアプローチ（集学的治療）が行われる等大きく変化しています（一般社団法人 日本口腔ケア学会ホームページ <https://www.oralcare-jp.org/about01/> より抜粋）。口腔ケアの基本概念や手法、また疾患特異的なケアの要点、また口腔ケアを取り巻く最新の情報などについて理解してもらうことを目標としています。

II. 受入可能人数

若干名

III. 担当教員

和久井 崇 大 口腔外科

福 本 正 知 口腔外科

IV. 学習内容

基本的にスライドを用いた講義を主体とします。必要に応じてビデオなどで口腔ケアの様子を紹介することもあります。

V. 学修の到達目標

口腔ケアの基本概念や手法、また疾患特異的なケアの要点、また口腔ケアを取り巻く最新の情報などについて理解してもらう

VI. 成績評価の方法・基準

講義終了後に、その内容を理解しているかどうかの小テストを実施する。(30%)

また講義終了後にレポートを作成・提出してもらい評価する。(70%)

VII. 使用する教材・資料など

教科書・参考書は不要です。

VIII. 質問への対応方法

メールにて(科目責任者 福本正知: chonji-f@dokkyomed.ac.jp)

IX. 求められる事前学習、事後学習及びそれに必要な時間

事前学習：一般社団法人日本口腔ケア学会ホームページの事前閲覧 (<https://www.oralcare-jp.org>)：10分

事後学習：講義資料を配布する：20分

X. コアカリ記号・番号

PS-02-16: 耳鼻・咽喉・口腔系

- PS-02-16-01 耳鼻・咽喉・口腔系の構造と機能について基本的事項を理解している。
 PS-02-16-02 耳鼻・咽喉・口腔系でみられる症候について理解している。
 PS-02-16-03 耳鼻・咽喉・口腔系で行う検査方法について基本的事項を理解している。
 PS-02-16-04 耳鼻・咽喉・口腔系疾患に特異的な治療法について基本的事項を理解している。
 PS-02-16-05 耳鼻・咽喉・口腔系の疾患・病態について病因，疫学，症候，検査，診断，治療法を理解している。

XI. 課題（試験やレポート）に対するフィードバックの方法

- 小テストについては，採点後に結果と正解を通知する。
 レポートについては，採点後に点数を通知する。

XII. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能，種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い，他者に説明することができる。	○
	種々の疾患の診断や治療，予防について原理や特徴を含めて理解し，他者に説明することができる。	◎
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け，正しく実践することができる。	
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	○
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け，患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け，患者やその家族，あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	
	書籍や種々の資料，情報通信技術（ICT）などの利用法を理解し，自らの学修に活用することができる。	
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち，専門的議論に参加することができる。	
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち，実践することができる。	
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し，自らの行動に反映させることができる。	○
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け，自らの行動に反映させることができる。	
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け，他者との関係においてそれを活かすことができる。	
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け，他者との関係においてそれを活かすことができる。	

四
学
年